

## ★今年もどうぞよろしく

今年のお正月は比較的暖かで良い天候に恵まれましたが、皆様お変わりなく新年を迎えられたことと思います。お互い体のどこかに故障箇所を持っていてもおかしくない年頃ではありますが、こうしてまがりなりにも元気でお正月を迎え、映像づくりを楽しんでおられることを有難いと思います。映像づくりに頭と体を使い、仲間と楽しく交流を深めることは何よりの心の健康であり頭の老化防止につながっていると考えます。今年も例会や撮影会等を通じ、仲間どうしの親睦を深め、OMCが楽しい会へ益々発展していく事を念じつつ。どうか本年もよろしくお願いします。

## ★“個人映写会”考

—合原一夫氏の東京だより(27)—

東京では時たま個人映写会なるものが行われている。私が最初に個人映写会に接したのは確か昭和40年頃だったか、ブリジストンホールでの近藤幹太さん(故人)の故人映写会であった。当時はダブル8で映写機も性能が悪かった筈だが、初めて見る画面の明るさ、大きさにびっくりした覚えがある。それに立派に音楽もナレーションも入っている。当時私は8ミリといえば4帖半の部屋で小さなサイレンと画面を見るしか経験がなかったので無理もない。それが動機で師岡8ミリ教室に通い出し、東京エイト(現・東京映像)とのかかわりあいを持つきっかけになった。

その東京映像の川上会長が昨秋、個人映写会を新宿安田生命ホールで行われ、そのお手伝いをしたが、椅子席が足りず、折りたたみ

の補助椅子を出したが、出してもすぐ一杯となって用意の50脚が出払ってしまい、とうとう床の上へ直接座ってもらうよう、紙を用意したほどであった。

何がこれほどに人を集めるのか、考えてみると、仕事上のつき合い、というグループもあるが、人間的な魅力ではないかと思う。それと普段の他クラブとのつき合い方、交流の深さがあるのではないか、と思うのである。

山岳映画サロン代表の伊藤氏も今年は個人映写会を計画されているが、これも千人以上の観客動員は間違いないだろう。とても真似の出来ないことである。

## ★12月例会レポート

師走例会で集まりが心配されたが18名の参加者と7本の出品で賑やかな例会となった。

上映：「鬼岩という名の岩山」桐田氏、Su M 5分。鬼岩温泉という知られざる場所でのスケッチ。場所の説明が欲しかった。「壬生狂言」金子氏、Su M 13分30秒。丹念に撮られているが解説が無いのでわかりにくいとの声。「晩秋の頃」村田氏、Si M 4分15秒。美しい画面だけにもっと逆光効果も狙っては等の助言あり。「ふとん太鼓」細見氏、Si M 8分。迫力も変化もあって大変良くできた作品。

「晩秋抄」辻村氏、Su T 5分30秒。綺麗な作品だ。人物の扱いにしばし話がはずむ。「みなと」江村氏、Si M 3分30秒。短編のまとめ方について活発な意見交換。「夏山穂高」有村氏、Su T 15分。家族同行記の往年の名作  
★11月例会は第4土曜25日、18時20分。於なにわ会館。新作旧作持参歓迎。乞多数ご出席



## ★ぶらり柴又かいわい

—合原一夫氏の東京だより (28) —

JR常磐線金町から京成電車でひと駅、柴又駅へ降り立つと、すぐ帝釈天への参道があり、両側に門前町らしいみやげ物店が軒を並べている。ここは寅さん映画で有名なところでもある。フーテンの寅さんにあやかっただけの商品がずらり並んでいるサマはさすがで、今にも寅さんが「いよーつ、元気かい」と店の奥から顔をだしそうな雰囲気がただよってくる。門前町の奥に帝釈天の古い寺があるが、この回廊にある無数の彫刻には驚かされる。かつて有名な彫師たちが腕をきそい合って彫ったというだけあって見事である。

その帝釈天の裏手に江戸川があり、渡し舟がある。歌で聞こえた「矢切りの渡し」である。片道百円で渡してくれ、休日には観光客で行列が出るほどの人気である。

柴又かいわいは、一日ゆっくり散策するにはいいコースだし、カメラの被写体も多い。関西から上京する機会があれば、一日延ばして行かれるとよい。

## ★出席率もアップ「新年会」

新年懇親会は1月18日、午後6時より例会場のなにわ会館で開催、19名の出席があり、鍋を囲んで賑やかに会談。去年の新年会以来という“新年会会員”も姿を見せられ「よお一元気でっか」「例会にもたまには出てや」など和気あいあい。話が尽きず二次会へと席を移した。この調子で例会も集まりたい。

## ★1月レポート

今年初の例会日、しばらく雑談を楽しんだ

後、午後6時40分開会。会長より新年会の会計報告、会費残高24,920円を会計に入れることを了承された。続いて作品上映に入った。

今月は合原広報担当が所用欠席のため、花岡氏と小倉会長がピンチヒッターで記録とまとめを担当された。

上映作品；「帝釈峡」桐田氏、Su M 4分20秒。帝釈峡を船の中からのスナップ。

「祇王寺秋冬」金子氏、Su M 8分。根気よく撮影された力作。逆光のススキ、雪のシーンなど、きれいなカットが多いので、画面の流れ、盛り上げを考慮して再編集されると見応えある作品に。露出のふらつきに注意を。

「初詣」村田氏、Si M 6分。清荒神での初参り風景。人込みの中で良く撮られている。

「枯れ葉」江村氏、Si M 4分30秒。徹底した移動撮影とオーバーラップで構成された江村さんらしい作品。紅葉した木立が美しい。

「群鷗」細見氏、Si M 4分。賀茂川の“ゆりかもめ”を追った作品。乱舞する鷗の逆光のアップ等よく撮られている。だがこれだけでは映画になりにくい。ストーリーを要すと作者の弁。「秋・信貴山寺」前田氏、Su T 11分30秒。スタジオエイト撮影会作品。

「探求」辻村氏、Su T 5分20秒。他クラブの公開映写会で上映された作品。カメラを持って石仏などを追い続ける作者自身を撮影。歩く足を通しての画面は面白い。「湖の糸」前田氏、Su T 11分。OMC撮影会を基調に、蚕や琴糸作り等撮り足した往年の名作。

★2月例会は第4土曜22日、18時20分。於なにわ会館。楽しい例会で寒さを吹き飛ばそう



## 8mm映画の究極美「小倉宝蔵とその仲間たちの作品集」

このたび大阪府立文化情報センターでは、府民に対する生涯学習推進事業の一環として大阪ムービーサークル(OMC)との共催で8mm映画の究極美「小倉宝蔵とその仲間たちの作品集」の上映会を開催することとなりました。

今回は、8mm映画の究極美とされる小倉宝蔵氏とその仲間の「これこそ8mm映画」というすばらしい作品を観賞するとともに、製作者との対話形式による映画談義をいたします。

### 記

- 主 題** 8mm映画の究極美「小倉宝蔵とその仲間たちの作品集」
- 日 時** 平成4年3月12日(木)午後6時～8時30分
- 会 場** 大阪府立文化情報センター ( ☎ 06-444-1011 )  
 (大阪市北区中之島3-2-18 住友中之島ビル5階)  
地下鉄四ツ橋線「肥後橋」下車徒歩5分 朝日新聞社ビル 西隣
- 主 催** 大阪府立文化情報センター・大阪ムービーサークル(OMC)
- 定 員** 150名(先着順)
- 申込方法** 電話で申し込むこと
- 申込先** 大阪府立文化情報センター「8mm映画係」 ( ☎ 06-444-1011 )

**参加費** 無料  
**内 容**

- ◎ 上映作品
- (1) 夢を待つ長吉 ドラマ 11分 小倉 宝蔵 演出  
(OMC、関西シネクラブ)
- (2) スリランカの顔 海外記録 10分 上総 修一郎 作品  
(OMC、関西シネクラブ)
- (3) 砂の舞 心象 15分 八洲 宏 仁 作品  
(地下街)
- (4) HELPI アニメ 7分 関 剛 作品  
(地下街、OMC、関西シネクラブ)
- (5) 湖の糸 ポエム 12分 前田 茂 作品  
(OMC、スタジオエイト)
- (6) 煙の挽歌 ドキュメント 17分 有村 博 作品  
(OMC)
- (7) テントウ虫のサンバ アニメ 3分 本田 裕信 作品  
(関西シネクラブ、銀の会)
- (8) 35年目の夏 ドキュメント 16分 小倉 宝蔵 作品  
(OMC 関西シネクラブ)
- 地球上からの核廃絶はいつの日か、原爆の洗礼をうけたヒロシマの夏

◎ 映画談義 出席者 制作者



## ★都心の森 =国立自然教育園=

—合原一夫氏の東京だより(29)—

JR山手線目黒駅より歩いて5分ほどのところに、国立自然教育園があるが、案外知られていない。ここは江戸時代さる大名の屋敷跡らしいが20万㎡の広大な敷地で、約800種の植物が自然のまま自生している。江戸時代から何百年の樹齢をもつ大木も多い。カラスが群れをなしているのも壮観だが約100種を数えるという野鳥のすみ家でもある。東京の都心、山手線の内側にこうした巨大な森が残されているのかと思うと、何か不思議な気もするがさすが東京は広い、と思ってしまう。

上京の折、時間があったら立ち寄ってみられるのもよい。東京の別な一面を見る思いと何か別世界へ踏み込んだ気持になろう。

## ★2月例会レポート

昼頃より小雪がちらつき始めた寒い例会の日、そのためかやや集まりが悪かったが、珍しく山形氏が旧作ながら作品をひっ提げて参加され、ご存知ない比較的新しい会員さんに司会の有村氏より紹介があった。いつもの土曜の夜は仕事の関係で出席困難とのことだが、出来るだけ顔だし願いたいものである。

上映作品；「立山黒部アルペンルートを辿る」桐田豊繁氏、Su M 9分。あずみ野、松本城、トロッコ列車、立山等盛りたくさん。むしろタイトルを変えたらという助言あり。

「雪とダルマのある寺」細見正氏、Si M 4分。撮影途上24コマに気付いたが、そのまま24コマ撮影したと作者。雪が降り出したので勝尾寺へ車をとばして撮られた。細見氏らしい

情感はあるが、欲をいえば雪の質感が表現されていたら等、意見がいろいろ出された。

「川原のかもめたち」金子博泰氏、Su M 8分。サギを撮りに行ったがサギが居なくてかもめを撮ってきたと京都のかもめをテーマとされた作品。犬の散歩など関係のないカットを整理したら良い作品になりそうだ。「初ごまに淡雪まう」村田英夫氏、Si M 6分。すっかり上達された村田さん、この作品もよく撮られている。ただ、タイトルのつけ方がいつもテレビのつけ方、即ち正直に説明調なのが気になると小倉会長の助言。題名のつけ方に工夫があっていいという意見には賛成である。ご勉強ください。

「砂の舞」(参考作品)八洲宏仁氏、Su T 14分。元エルモクラブ幹事のベテラン作家の作品だが抽象的な内容に難解だという声も。

「駒込の祭」合原一夫氏、Si M 11分。後で別のところで撮った自身のカットが不自然なので気になるという声があった。雑踏の中でリモコン撮影は難しいが今年の祭りでやってみたいと作者。「湖東三山」山形修氏、Su T 7分。スタジオ8撮影会作品だが、なかなかよくできた作品で、山形氏の力量は流石である。氏の新作が期待されるが、ぜひカムバックしてときどき作品発表していただきたいものである。「Help」関剛氏、Su T 7分。17年前の時代風刺アニメ。氏の努力作だ。

★「8ミリの原点を探る」上映会が3月12日堂島で行われOMCから多数参加盛会だった。★3月例会は第4土曜28日、18時20分。於なにわ会館。新作旧作持参歓迎。を多数ご出席



## ★花見か人見か、ごったがえす上野公園

—合原一夫氏の東京だより (30) —

今年は例年より早く桜の花が咲いた様だ。4月4日の第1土曜に上野駅へ降り立った私は、上野公園へ入っていった。最近ここは、イラン人が多数たむろすることで話題を呼んでいるところ。しかし花見の頃となって日本人の雑踏にかくれて目立つこともなかった。

上野公園の桜は確かに見事である。その下で花見酒に酔う人、酔っぱらって寝ている人カラオケ歌っているグループ、ジャンケンポンやって騒いでいる若者達。賑やかなものである。席取りに深夜から頑張っ確保していると聞く。席取りによって狭まった通路にはあふれるばかりの人の行列。日本らしい風景が展開する。一方、桜のない広場の方へ行くと、大道芸人やパフォーマンス芸人を中心にした人の輪がいくつも出来ていた。

## ★公開映写会10月23日 (金) 朝日生命ホール

8月例会で出品作品のリストアップをします。今年も頑張っ映写会を成功させよう。

## ★3月例会レポート

例会前日より甲子園春の選抜大会が始っていた。春本番である。そのせいか、例会の集まりもよく、あと1人で20名の大台を達成したのに惜しかったが19名の参加者と、新作中心に9本の出品 (ビデオはやっていないので8ミリフィルム作品だけですゾ、念の為…) で、時間を気にしながらの上映となり、うれしい悲鳴であった。

上映作品; 「カタクリの花をたずねて」 桐田氏、Su M 5分。カタクリの花を見に行ったが

花が少なく残念だったと作者。どの花がカタクリだったか印象が薄かったのが惜しい。

「溪流つり」滝野氏、Si M 19分。S63年作いつもながら自作自演の努力作。撮影のご苦労ぶりが画面より滲み出ている。溪流でのあまご釣と周りの雰囲気がよく出ている。結構でした。「津軽旅もよう」金子氏、Su M 9分。津軽海峡雪景色を意図してつくられたとか。ひとしきり北国の冬での撮影苦労話の花が咲いた。ナレーションを入れて完成させたいとか、期待したい。「万博梅まつり」村田氏、Si M 9分。きれいな画面である。まつりとはいえ、その雰囲気が無いので題名を見直しては、との意見あり。「流し雛」細見氏、Si M 6分。和歌山市加太の淡嶋神社で3月3日に行われる行事の記録。人出の多いなかでよく撮られている。なかなか人形のところまで近づけないそうだが、いいカメラ位置を確保された。努力の賜物であろう。「時」江村氏、Si M 3分35秒。曲に合わせた歌謡映画だが、時計の振子と実景との二重写し等工夫されている。バックの絵に注文がしたが、アイデアを買いたい。「ぶらり柴又」合原氏、Si M 9分30秒。おなじみフーテンの寅さんの故郷と、その近くにある矢切りの渡しのあたりを休日に散策、軽く作品にまとめられた。「冬湖東三山」前田氏、Su T 10分。スタジオ8撮影会での自由作品だが、重厚な作品だ。「城ヶ島旅情」今井氏、Su T 11分。しっとりとした仕上がりで情感がただよう。

★4月例会は第4土曜25日、18時20分。なにわ会館、気候よし、楽しい集いに全員集合!



## ★信州・安曇野撮影紀行

この4月18・19の土日に東京映像一泊撮影旅行が行われ、信州・安曇野（あづみの）へ行って来た。22人乗り小型デラックスバスで東京から約3時間余の道のりである。安曇野は北アルプス等の山々に囲まれた盆地で、のんびりとした田園風景が続く。北アルプスからの雪解け水が湧水となって小川が流れ、わさびが栽培されている。わさび田は観光名所になっているだけあって何ともいえぬ美しさがたどよい、ついフィルムを回し過ぎてしまう。東京より2週遅れて桜の満開、驚いたことに梅もつくしも皆一斉に春を告げていて、いかにも春を待ちわびたといった風情であった。桜の向うに北アルプスの銀嶺が続くが、あいにく、春がすみで今ひとつくっきりとした峰々の姿ではなかったのが残念。道端のあちこちに道祖神があるのも安曇野ならではの点景だ。2日目は雨にたたられて撮影が思うようにできなかったが、前日開館したばかりという豊科近代美術館の館内が撮影できたのが僅かながら収穫であった。

東京映像でもビデオ派が増え、8ミリとビデオ半々といったところ。さて、どんな作品を皆つくってくるのかお楽しみだ。

東京から一泊迄入れると、まだいい撮影場所が多数ある。私の東京生活、先が見えてきたので今のうちにあちこち行きたいと思うように休みも取れず、今日も寮の窓から雨空を眺めて溜め息ついている…。合原記

## ★4月例会レポート

すがすがしい季節の到来。行楽によし、撮

影によしの季節だが、例会場のなにわ会館では、結婚式の花盛りであった。華やいだ雰囲気かロビーにたどよい、普段着姿で入っていくのにいささか気がひけるぐらい。

開会前の楽しいひととき。今日もビデオ談議に花が咲いたが、なかに「ビデオはどうしても嫌い、テレビ録画もイヤヤ」とのたもうご仁も現れて皆大笑い。8ミリこだわり派にとってはまさに“頼もしい人”未だ健在。

上映作品；「カタクリの花を訪ねて」桐田氏 Su M 7分。先月出品されたのを再編集されたが今度はどの花がカタクリか、よく判って結構でした。「春らんまん」村田氏、Si M 7分 池田の五月山での花見スケッチ。きれいな仕上がりだ。BGMについて注文がついた。「春・嵯峨大沢の池」細見氏、Sui M 9分。曇天に近い空模様なのが惜しいが、さすが細見さんらしくきれいな画面に仕上がっている。カットの短いのか多いのは気になる。春はひねもすのたりのたりかな、のつもりで長めに撮ったらどうか、と司会の有村氏より助言あり。

「ぶらり奥多摩」合原氏、Su M 10分半。作者は東京赴任中で、このところ休日に「ぶらり」とあちこち散策して気楽に作品をまとめているが、これも「ぶらり散策シリーズ」の一つ。東京も奥の方へ行くとまだ自然が残っている。「煙の挽歌」有村氏、Su T 18分。キャノンコン・グランプリの往年の名作。滝畑の炭焼き老人の話だが今は故人とか。

★後期会費受入れ中、よろしく願います。

☆5月例会は第4土曜23日、18時20分。なにわ会館。新作旧作持参歓迎。乞多数ご出席。



## OMC 92年度撮影会実施のお知らせ

たいへんお待たせしました。今年の撮影会を下記の要領で実施します。参加ご希望のかたは5月の例会日にお申込み下さい。

	H4	記
実施日	5月31日(日)	
場所	兵庫県相生市 相生港一帯 (JR相生駅より神姫バス相生荘行で約15分)	
テーマ	相生のペーロン競漕	
参加費	1000円	
集合	午前9時35分JR相生駅北口神姫バス乗り場で現地集合 前夜の花火大会(豪華3300発打上げ)を撮りたい方は前日に行って当日現地で落合ってもけっこうです。	

### 相生までの電車

新幹線 新大阪(21番線) 8:27-こだま 493号岡山行-9:33 相生

在来線 大阪(5番線) 8:00-新快速姫路行-9:01 姫路 乗換え

姫路 9:04-普通系崎行-9:23 相生

または 姫路 9:07-普通赤穂行-9:26 相生

なお、詳細は23日の例会場でお知らせします。

「相生ペーロン祭」は毎年5月の最終日曜日に、その前夜の花火大会を皮きりに相生港周辺で開催されます。当日は海上のペーロン競漕が祭りの中心ですが、町の中でもペーロン音頭踊り、音楽隊などのパレードや、趣向を凝らしたカーニバル行列などもあり、町全体が祭り一色で盛り上がります。

ペーロン競漕といえば長崎が有名ですが、古く大正年代から始まったと言われ、年中行事にもなっていないながら相生のペーロン競漕を知る人は意外と少ないようです。造船以外これといった産業もなく、観光資源も持たない、普段は忘れ去られたような小さな街だからでしょう。ですから、年に一度の行事に街中をあげて大騒ぎするのもわかるような気がします。

ところで当日ですが、我々の撮影は踊りやカーニバルは避けて、テーマをペーロン競漕ひとつに絞った方が良いでしょう。しかし競走する舟ばかり撮っても映画になりません。スタッフや、出漕直前、ゴール直後の漕ぎ手の表情のアップなども必要です。ただ、出発、ゴールとなる栈橋は一般人立入禁止になっていますが、撮影できるよう関係機関に交渉してみますので、結果が出るまでもう暫く猶予願います。



## ★フィルム1本3000円也の感慨

—合原一夫氏の東京だより(32)—

コダックの8ミリフィルム現像代が1300円に大幅値上げになった。マグネトキーにしてフィルム代共1本3000円の時代になったわけだ。これで8ミリ離れがいよいよ進んだとしても、もともと利益の上がらない部門なので構わない、といったメーカーの開き直りのような感じさえる。映像1分間1000円するといったら、ビデオ派の人は目をむくに違いない。120分のテープ1本分を8ミリフィルムで撮るとしたら実に12万円もかかると判れば、一瞬、信じられないのも無理もない。

それでも、恐らく8ミリ愛好家はフィルム映像をあきらめきれないであろう。“しようがないなあ”ぼやきながらも、せつせと8ミリを回す人はまだ多いに違いない。それほどフィルム映像には何か魔物の様なものが感じられるのである。

だが、家計のことも考えなければならない。1カット1カットを大切に、無駄のない撮影でフィルムの“有効率”を高めていくという自衛策を講じなければ“かみさん”に申し訳ない。そのことが映像づくりの上達にはむしろ刺激になっていいのではないかと、こちらから開き直りたくもなる心境である。

ビデオはビデオなりの良さを認めてテーマによって使い分け、「ここ一番」というテーマの作品づくりには、やはりフィルム映像に魅力がある。ともあれ、シングル派の人の為に、富士さんだけは頑張っって値上げしないでほしいものである。

## ★5月例会レポート

雨の為か会員さんの出足しが悪かったが、ボツボツ増えて結局15名の参加と5本の作品出品でいつもの通りの賑やかさとなった。開会前のひととき、花岡さんが酒沢岳の頂上からEOS630カメラを強風で落としてしまい残念だったと、ひとしきり話題に。ご本人が落ちなくてよかった、となぐさめの声しきり。

久方ぶりご出席の関さんより、撮影会の件につき詳細に説明あり。相生のペーロン祭がテーマの日帰り撮影会だ。

上映；「薬師寺」村田氏、Si M 12分。2～3年かけて作られた努力作。仏像は写真を撮影してあるがうまく同化して違和感はなかった。ナレの内容に注文と助言が続いた。「花博は終わって」細見氏、Si M 5分。綺麗に撮られているがテーマと画面とがやや違うのではないかと意見あり。チューリップと水車に絞った方がよかったかも。「祇園精舎遺蹟をたずねて」田中氏、Su T 17分。5年前に行かれたインド仏跡の記録。原則として仏教遺蹟は撮影禁止とかで、翌日はもう撮れなかったと苦労話も。お釈迦様のおられたという跡を日本人の手で発掘したという遺蹟。「郷愁の里・飛騨高山の旅」合原氏、Si M 14分。高山祭に合わせた一泊撮影紀行作品。小京都といわれる高山の祭、なるほど京都の祇園祭の雰囲気はただよう。「帝釈峡」増田氏、Su T 12分。22年前奥さん同行記、ご本人がラストに出て「出た！」と観客すずめの声あり。

☆6月例会は第4土曜27日、18時20分。なにわ会館。例会楽し、二次会また良し。集合!



## ★ビクタービデオクラブ解散に想う

—合原一夫氏の東京だより (33) —

6月のOMC例会の席上、有村氏よりショッキングな話題が提供された。ビクターのビデオクラブが会社の方針で解散させられるというのである。毎月40~50名の会員で賑わっていたビデオクラブ例会の様子が頭をよぎった。ビクターはこのところビデオの売上がのびず、ソニーに押されて一体型カメラのシェアが10%に落ちて、業績が低下したところへ、社長交替で社内の経費節減指令が徹底してきたのであろう。クラブの運営費が幾らかかるか判らないが、今後の製品売上げに役立つことは期待できないと判断されたのであろう。いずれにしてもビデオクラブ会員にとっては、楽しみやら目標やらを奪われたようで残念なことであろう。

今後は自主クラブとして世話役クラスで考えるということだが、会場問題、機材、例案内事務など解決すべき課題が山積している。自主クラブがうまくいくかどうかは、世話役の熱意と努力如何にかかっている。どうか頑張って軌道にのせてほしい。OMCとしても同じ映像仲間として人ごとならず、共存共栄で共に楽しい会に発展させていきたいものである。ご健闘を祈りたい。

## ★6月例会レポート

梅雨の最中で例会日の6月27日も小雨がパラつくあいにくの天気。それでも横山さんと堀池さんらも元気な姿を見せられる等18名の参加者と新作5本、リバイバル1本の計6本の出品で盛り上った。8ミリフィルムの新作

が月例会に一度に5本も出品されるなど、他のクラブから見ればうらやましい限りかも知れない。

開会前のひととき、有村氏からビクタービデオクラブ解散の話が出て、皆しんみりした気分になった。まさに人ごとならずである。

また、花岡氏がペーロン祭撮影会で撮したフィルムの本が真っ白になって現像から返ってきたと。原因不明の珍事に首をひねるも判らずじまい。例会に出ているといろんな話題がでてそれだけでも結構楽しい。

上映；「残雪の飛越峡」金子氏、Si M 12分  
遠くまで行って祭を主体に撮って来られたが全体の構成に色々注文がついた。再編集されナレーションも入れられたら良くなる。

「うちわ撒き」村田氏、Si M 9分。唐招提寺の有名な行事の記録だが良く撮られている。

NHKのシルクロードのBGMはイメージが合わない指摘あり。「風薫る」江村氏、Si M 6分。江村氏らしい作品だが難しいテーマだ。テーマに合っていないカットは省いた方がよい等意見続出。「あじさいのころ」細見氏、Si M 6分半。情感豊に撮られており公開映写会候補作品になりうる秀作。それだけに細かい点で意見がかわされた。「銀嶺遙か・安曇野の旅」合原氏、Si M 10分。夫婦同伴の東京映像クラブ撮影会同行記。以上新作。

「流水曼陀羅」上総氏、Su T 12分。61年作北海道の流水を求めて何回も通われた努力作

★7月例会は第4土曜25日、18時20分。なにわ会館。ペーロン祭撮影会作品公開審査。その他例会作品もどうぞ。楽しい例会に集合!



## ★東京のクラブ例会模様

—合原一夫氏の東京だより (34) —

東京の映像クラブは多い。今年、東京映像連盟主催のフェスティバル参加クラブだけでも38にも及び、朝10時から夜の8時まで連続上映という盛況ぶりなのである。それぞれのクラブには特色があろうが、私の所属する東京映像クラブの例会についてご紹介しよう。

(毎月第2火曜、年1万円) 東京映像は川上会長というよきリーダーのもと、親睦主体の運営で、会場も川上さんの事務所で行っているから会場費はタダ。隣に一杯呑み屋があるので二次会場には困らない。ビデオ6、フィルム4の割合で出品されている。ときどき参考作品持参でベテラン作家がやって来る。雰囲気は和気あいあい。出席は14~15名位。撮影会は年に1回一泊旅行、シナリオを事前に配って、等は絶対にしない。構成は自由なのだ。コンテストもなし。競い合うというのを好まないであろう。その中から恒例の公開映写会へ1本出品される。東京映像は総じてレベルが高いとされるが、全員が高いわけではない。レベルもいろいろだし作らない人も結構いる。落語のプロもおられて新年会の余興には必ず一席語ってもらう習わしだ。田淵千枝子さんというベテラン女流作家を抱えているのも特色の一つだろう。昨年の旅コンでグランプリをとられたほどの力量のある方で60才を幾つ過ぎておられるのかはお聞きするのは遠慮している。

## ★7月例会レポート

(合原広報担当所用で欠席の為小倉会長記)

7月例会日25日、34℃の炎暑に天神祭の船渡御と重なって例会の出席が心配されたが、流石にOMCの会員さん、暑いあついといいながらだんだん顔が満ってくる。参加者14名となったところで、定刻より20分遅れて司会の有村氏の開会挨拶。ビクターのビデオクラブのその後について報告あり、会場問題は小倉OMC会長の世話で2月からOMC例会と同じ部屋で第2土曜夜、例会が行われることになった由。

相生ペーロン祭撮影会作品の公開審査を行ったが、ビデオ派もあって8ミリ出品者は3名にとどまった。しかし、いずれもよくできており甲乙つけがたい熱戦となったが、さすがベテラン、前田氏がトップ、2位細見氏、3位花岡氏の順であった。前田作品はフェスティバル上映の撮影会作品にする予定。

上映; 「相生ペーロン祭」花岡氏、Su T 12分。「ペーロン祭」細見氏、Si M 9分。「相生のペーロン祭」前田氏、Su T 8分。

例会作品上映; 「天神祭」岡本氏 Su T 10分 '82年作、船渡御を涼しい部屋で見られて結構でした。「佐渡慕情」金子氏 Su M 10分。いろいろ盛りたくさんに撮られて楽しいか構成にひと工夫ほしいとの注文も。「勝尾寺の印象」村田氏 Si M 8分。ロングのピン甘修理テストとの由だが、内容もよくタイトルのつけ方等いろいろ意見が出された。「走行視界」江村氏 Si M 6分。江村作品らしい話題作。「あおいポーチ」有村氏 Su M 10分。

★8月例会は第4土曜22日18時20分。なにわ会館、涼しい会場で楽しい一夜をすごそう。



## ★「東京アマチュア映画祭」雑感

—合原一夫氏の東京だより (35) —

去る9月6日の日曜日、新宿安田生命ホールで第1回東京アマチュア映画祭が盛大に催された。第1回というのは、昨年までは8ミリ映画だけのフェスティバルであったのを、今年からすっかり衣替えしてビデオも含めた都民に開かれた映画祭ということで再出発し、都から多くの補助金を貰って場所も便利な新宿駅前の一等地で行われるようになった。

午前の部、午後の部、夜の部と連続上映につき合い、懇親会が終わって帰って寝たのは11時を過ぎていて、さすがに疲れた。

あの安田生命ホール(約400名収容)が常時満席に近く、昼頃には立見席も出たほどだったので延べ700人は入場したと思われる。作品レベルは総じて高く、さすが各クラブ代表作だけのことはあると思った。コンテスト応募作品の部でドラマクラブの「浅草物語」などドラマ作品としても見応えがあり、グランプリに輝いたのも当然であった。

ビデオが始めて登場するので、印象を悪くさせないために招待作品をラストに並べたのはいい考えで、トリの児島範昭氏の「炎夏土佐」はさすが児島作品だと評判は良かった。

8ミリ作品は、山岳映画サロンご自慢の特別明るい映写装置と4.3mの反射率の良い大スクリーンで映写効果は抜群、そこへ行くとビデオで横巾3mに落としての映写と見る位置によって暗い感じがしたのは、まだまだ、ビデオでの大映写は8ミリにはかなわないことを実証したのだった。しかし、3~4年後

にはそれも解決するかも知れない。それほどビデオ技術の進歩は目ざましいものがある。

作品レベルも映写効果も今年までは8ミリに軍配が上ったが、さていつ逆転するか…。

## ★8月レポート

今年の暑さは格別、猛暑もきびしい。例会日の22日は高校野球ベスト8が出そろった頃で熱気最高潮の頃。今月は会長海外旅行でお休みだが15名の出席と6本の出品を得て、まずまずの例会となった。

上映; 「嵯峨野秋冬」金子氏 Su M 6分。フェス出品予定作品、よく出来ているだけに音やピン甘カット等注文が出された。「おいで祭」村田氏 Si M 10分。京都松尾神社の例祭記録。落ちついた撮影は良かったか神輿の川下りで終わったのはどこへ行ったか説明がほしい等の意見が出された。「四季点描」有村氏 Su T 9分。氏の久々の8ミリ作品。昨日現像が上がってきたばかりのホヤホヤ作品でフェス出品用とか。四季の移り変わりを映像でどう表現するか課題だが、きれいにまとまりを見せているのはさすが。「牡丹の咲く寺」細見氏 Si M 6分。長谷寺のボタンの花を美しく撮られた氏の小品。「炎」江村氏、Si M 5分。四天王寺万灯供養をモチーフに幻想的場面をねらわれたフェス出品作。喜多郎の音楽は変えた方がよいとの声も。「食人種の末裔ダニ族」上総氏 Su T 20分。氏往年の名作、ダニ族の風俗が珍しい。

☆9月例会は第4土曜26日18時20分。なにわ会館。今期最後の例会日、楽しく盛上げよう。

\*10月例会はフェスティバルでお休みです。



## ★まずまずの盛会・OMCフェスティバル

心配されたお天気もどうか雨にならず、10月23日のOMCフェスティバルを無事終了することが出来てほっとひと安心。小倉会長はじめ会員諸氏のご努力ご協力の賜物である

当日記入いただいた芳名簿から小倉会長がいろいろ調べた結果をご報告したい。まず、記入者と世話役・出品者で189名、それに記入しないで入場された方も大分あると思われるので、それらを加えて総入場者数は220名から230名位だと推定される。うち、初めて来られた方78名、昨年来られて今年来られなかった方83名、これは出品者動員の要因かと思われる。この他、数年ぶりに顔を見せられた方や、毎年来られている方が今年は見えなかったなど、いろいろなケースがあった。

総じて昨年並みか、若干の増というところ

## ★来年は関西シネクラブと合同発表会か

毎年朝日生命ホールでOMCと関西シネクラブ（両方とも小倉会長）が別々にフェスティバルを開催しているが、会員でダブっている人も多く、両方へ出品するのがしんどい、という声や、良質の作品が集まらない、それに経費のこともあって、来年から合同で映写会をやるのではないかと、という話が進んでいる。OMCの方は9月例会直前の世話役会で討議され、例会で会員諸氏より了承を得たので、あとは関西シネクラブとの調整待ち。

## ★相生ペーロン祭撮影会入賞作品表彰

9月例会の席上、小倉会長より前田氏へ優秀賞、細見、花岡の両氏へ秀作賞の楯がそれぞれ手渡された。おめでとうございます。

## ★OMC “存続討議”

9月例会直前の世話役・フェス出品者の集まりの中で、小倉会長より来期以降、OMCを存続させるのか、これで解散するのかなど甚だショッキングな問題提起がなされた。皆一瞬、深刻に考え込んでしまったが、OMCの永年の電灯の灯を消すまじ、との声や、ビデオクラブ化していく他クラブにあきたらずフィルム映像に魅力を感じて入ってきた、といった8ミリ愛好家の声で存続論議に結末をつけしたが、フェスティバルだけは前記の通り関西シネクラブとの合同の方針が決まった。OMCにこの様な話題が出ること自体、時代の流れを感じるが、皆、大事にOMCの灯を守っていきたいものである。

## ★9月例会作品上映 「遊園地の夏」細見氏、Si M 6分。エキスポランドの楽しい雰囲気がよく出ている。季節感がもっと欲しいとの声も。「さかの秋冬」金子氏、Su M 6分。

フェス出品作。映像詩をねらった金子氏の努力作。「おいで祭」村田氏、Si M 9分。フェス出品作。ナレが入って判り易くなり、作品レベルも良くなった。「古代幻想」辻村氏、Su T 5分。フェス出品作。シチリア島に題材を求めた意欲作。「炎」江村氏、Si M 8分。フェス出品作。前月選曲に異論が出たのでやり直されたとか。「マスクカーニバル」上総氏、Su 26分。ヴェネチアの珍しい祭り、どう料理するか腕の見せ所、フェス用。

## ★新年の集い1月16日（土）、詳細別紙。

☆11月例会は28日土曜、18時20分。なにわ会館。楽しいひとときを過ごそう。会費納入月



## ★1992年度例会記録あれこれ

このほど例会3年分(89.10~92.9)の実績を調べたので、以下そのご報告。

		1990	1991	1992
例会回数		12回	12回	11回
年間作品総数		98本	84本	71本
月平均	出席者数	17.0人	16.8人	15.7人
	出品数	8.2本	7.0本	6.5本

上表から見ると、例会出席者と作品出品数が少しずつ漸減してきていることがわかる。この傾向は今後も続くと思われるので、いずれ抜本的な対策が必要になってくることを覚悟しておかなければならない。

次に例会の個人記録を調べた結果、村田氏が実に3年間無欠席、全出品という新記録を更新中でこのご熱心さには敬服の至りである

		1990	1991	1992
村田氏	出席	12回	12回	11回
	出品	12本	12本	11本
細見氏	出席	11回	10回	10回
	出品	11本	10本	10本
金子氏	出席	11回	11回	11回
	出品	9本	8本	9本
江村氏	出席	9回	9回	7回
	出品	9本	7本	7本

例会皆勤の方：有村、金子、増田、村田の各氏。9回以上の方：小倉、岡本、上総、花岡、細見、前田、森の各氏。ご協力に感謝。

作品5本以上出品の方：前表のほか、桐田合原の各氏。3本以上の方：辻村、前田、有村、上総の各氏。よく盛り上げて下さった。

## ★世話役開催、役割分担は前年通り

10月例会はフェスティバルのため休会となり、新年度第1回例会は11月28日なにわ会館で行われたが、それに先立って世話役会が開かれ、会長はじめ全世話役の留任が決ったほか、会計報告、関西シネクラブとの合同映写会の件、新年の集い等、盛りたくさんの議題について話し合いが行われ、引き続き例会で報告されて承認された。新年度もよろしくご協力のほどお願いします。

## ★OMC賞は細見、辻村、江村の三氏へ

秋のフェスティバル出品作の中から小倉会長らを中心にして審査された結果、今年はグランプリ、会長賞ともになし、OMC賞のみ上記三氏へ贈られることになり会長よりトロフィーが手渡された。拍手！

★作品上映；「平安絵巻」村田氏 Si M 10分  
嵐山もみじ祭、題と内容の不一致が指摘された。「エキスポランド」金子氏、Si M 7分。

“ねらい”について話題百出。「伊根の舟宿」江村氏、Si M 4分。家の下に舟庫がある珍しい風景。「嵯峨野路」合原氏 Si M 14分  
さかのの歴史とロマンを求めて数年がかりの作品。「塚の祭」上総氏、Su T 17分。3つの祭をうまく撮られている。「足助紀行」合原氏 Si M 13分。かつてのOMC撮影会作品

☆12月例会はいつもより1週間早く、第3土曜19日18時20分、なにわ会館。本年最後の例会を賑やかにしめくろう。二次会もどうぞ